

研究課題：終末期にある血液がん患者と家族が望む暮らしを支える看護活動～4 事例の検討から～

【研究責任者】高田幸恵（天理よろづ相談所病院 南44病棟）

【共同研究者】山中政子・松井利江・奥田眞紀子（天理医療大学・医療学部看護学科）

【研究の概要】高齢の急性白血病患者は、強力な抗がん剤治療で体力が低下するため、内服の抗がん剤や輸血といった支持療法で外来フォローすることが多く、その間に、感染や出血などの状態悪化時に緊急入院となり、入退院を繰り返して最終的には病院で看取ることが一般的でした。患者が在宅医療を望んでも、輸血などの支持療法の継続や疾患の特殊性が障壁となり、引き受け先が見つからず調整困難なことも多くありました。しかし、地域包括ケアシステム構築に向けて、在宅医療の重要性が高まり、白血病患者であっても、訪問診療と入院していた病院への通院を継続しながら、2人主治医制を続けることで、在宅看取りも可能になり、患者・家族の満足度につながる事例を経験しました。そこで、終末期血液がん患者4名を振り返り、事例研究の手法を用いて、患者の在宅療養移行を支えた看護活動と他職種との連携、および介入に対する患者・家族の反応を明らかにして、終末期血液がん患者の看護を構築する一助にしたいと考えています。

【患者さんをお願いしたいこと】この研究は、過去の診療録や看護記録、地域連携の記録を用いるもので、この研究に協力することにより、患者さんやそのご家族が直接受ける利益はありません。しかし、この研究による成果は、終末期にある血液がんの患者や家族のQOL（生活の質）、QOD（死の質）の充実に寄与すると考えています。得られたデータの利用は研究責任者と共同研究者に限られます。研究にあたり、患者さんの家族に直接のご同意は頂かず、この掲示によるお知らせをもって同意を頂いたものとして実施いたします。研究内容の主旨をご理解頂き、研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【研究内容の開示について】研究計画書や、研究に関する資料については、他の患者さんの個人情報保護に抵触しない限り閲覧が可能です。

【研究結果の発表と、患者さんの個人情報保護について】研究の結果は、専門学会や学術専門誌を通じて発表する予定です。患者さんの氏名、生年月日、住所などの個人を特定できる情報、プライバシーにかかわる情報は一切公開しません。また、研究の途中においても、これらの情報が漏れることのないよう細心の注意を払います。

【研究に参加することを希望されない場合の対応】研究対象となる患者さんのご家族が、患者さんの診療録や看護記録を本研究に使用されることをお断りになりたい場合は、下記の連絡先までその旨ご連絡ください。その場合は、該当する診療情報を本研究に使用することをとりやめます。ただし、研究成果をすでに公表したあとは取り消すことができません。本研究に協力することをお断りになっても、不利益が生じることは一切ありません。

【費用負担について】本研究において研究対象および代理人に経済的な負担をかけることはありません。

【お問い合わせ先】

天理よろづ相談所病院 南44病棟 看護師長 高田幸恵

住所：〒632-8552 奈良県天理市三島町 200 番地

電話：0743-63-5611（代表）